

麦野B遺跡II

——麦野B遺跡群第3次発掘調査報告——

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第358集

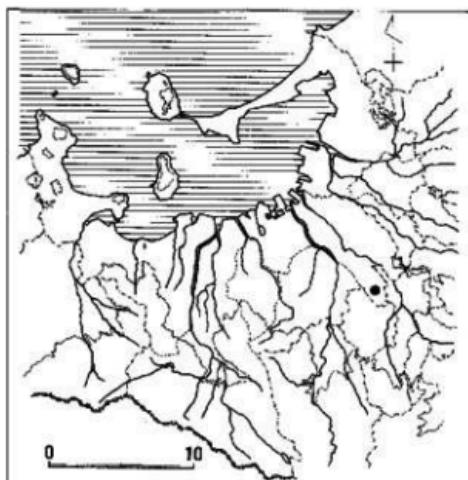
1994

福岡市教育委員会

麦野B遺跡II

—麦野B遺跡群第3次発掘調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第358集



遺跡略号 MGB-3

遺跡調査番号 9257

1994

福岡市教育委員会

序

福岡市の南郊に位置する博多区椎飼隈、麦野周辺地域は早くから住宅地として開けてきましたが、近年はさらに再開発が進み、それに伴い現在までに数次の発掘調査が行われ、調査の進展とともに新たな知見が得られています。

本書は遊戯場建設に伴って実施された麦野B遺跡群第3次調査を報告するものです。調査の結果、律令期の集落跡が検出され、過去の周辺地域の調査成果をさらに補強することができました。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいただいた株式会社親和、ならびに関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成6年3月31日

福岡市教育委員会

教育長 尾花剛

例　言

1. 本書は株式会社親和による遊戯場建設に伴い、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成4(1992)年度から平成5(1993)年度にかけて発掘調査を実施した麦野B遺跡第3次調査の報告である。
2. 本書に掲載した遺構の実測は担当の福岡市教育委員会埋蔵文化財課の佐藤一郎の他、奈良康正(専修大学大学院)、星子輝美が、撮影は佐藤があたった。
3. 本書に掲載した遺物の実測・撮影は佐藤があたった。
4. 製図は遺構を藤村佳公恵、星子、遺物を佐藤が行った。
5. 本書の執筆、編集は佐藤が行った。
6. 本報告の記録類、出土遺物は、収蔵整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので、活用されたい。

本文目次

序

Iはじめに	1
1 調査に到る経過	1
2 調査の組織	1
II 遺跡の位置と環境	1
III 発掘調査の概要	4
IV 遺構と遺物	6
1 検出遺構	6
豎穴住居跡	6
掘立柱建物	10
2 出土遺物	12

表目次

第1表 出出土器計測表	16
-------------	----

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第2図 麦野B遺跡第3次調査地域周辺図	3
第3図 麦野B遺跡第3次調査遺構配置図	折り込み
第4図 SB01豎穴住居実測図	5
第5図 SB02豎穴住居実測図	6
第6図 SB03豎穴住居実測図	7
第7図 SB03豎穴住居カマド実測図	8
第8図 SB04豎穴住居実測図	9
第9図 SB05豎穴住居実測図	10

第10図 SB06掘立柱建物実測図	11
第11図 SB01・02出土遺物実測図	13
第12図 SB03・05他出土遺物実測図	15

図 版 目 次

- 図版 1. 1. 麦野B遺跡第3次調査区北側(南から)
 2. 麦野B遺跡第3次調査区南側(北から)
- 図版 2. 1. S B01豎穴住居跡(南西から) 2. S B02豎穴住居跡(南から)
- 図版 3. 1. S B03豎穴住居跡(南から) 2. S B03豎穴住居跡カマド(南から)
- 図版 4. 1. S B05豎穴住居跡(南東から) 2. S B05豎穴住居跡カマド(南東から)
- 図版 5. 1. S B04豎穴住居跡(南西から) 2. S B06掘立柱建物(南から)
- 図版 6. 1. S B06掘立柱建物柱穴(から) 2・3. 作業風景
- 図版 7. 1. 防空壕2(南東から) 2. 防空壕1(北から)
 3. 防空壕4(南西から) 4. 防空壕3(南東から)
- 図版 8. 山土土器(1)
- 図版 9. 出土上器(2)
- 図版10. 出土下器(3)

I はじめに

1 調査に至る経過

1992年6月11日、株式会社サンユニオンから本市に対して博多区南本町31-1、31-2における遊戯場建設に伴う埋蔵文化財事前審査願書が申請された。申請地は周知の埋蔵文化財であるところの麦野B遺跡群の東縁に位置する。福岡市教育委員会埋蔵文化財課が、これを受け1992年6月25日に試掘調査を実施した。現況は駐車場で北東方向へ下降している。その結果、南側では地山の削平が著しく、北側を中心に密度は希薄ではあるが客土下で遺構が認められた。申請者と埋蔵文化財課は文化財保護に関する協議をもったが、申請面積1,704m²を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。その後施主となった株式会社親和と福岡市との間に発掘調査および資料整理に関する受託契約を締結し、調査は翌1993年2月15日から4月9日まで行われた。

2 調査の組織

調査委託 株式会社親和

調査主体 福岡市教育委員会埋蔵文化財課

調査統括 埋蔵文化財課長 折尾学

第2係長 塩屋勝利（前任） 第2係長 山崎純男

庶務担当 古田麻由美

調査担当 試掘調査 荒牧宏行

発掘調査 佐藤一郎

発掘作業・資料整理協力者 井上秀一・加生知彦・熊谷篤史・染地原崇史・松尾義長・三木貴史・奈良康正・安部カズエ・江藤晴美・緒方広恵・蒲地純子・久保山弓子・武沢タカ・倉川キチエ・永田幸子・八尋節子・山下直子・相川和子・下河純子・田中ヤス子・藤野邦子・藤村佳公恵・星子輝美

その他、発掘調査に至るまでの諸々の条件整備、調査中の調整等について施主の株式会社親和、施工の花田建設株式会社をはじめとする皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進み無事終了することができました。ここに深く感謝します。

II 遺跡の位置と環境

麦野B遺跡群は福岡平野を貫流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地、中位段丘上に立地する。現在その周辺域は市街化が進み、地表から旧地形を窺い知ることができないが、戰前の地



1. 比志遺跡 2. 那珂8次 3. 那珂1次・6次（那珂八幡古墳） 4. 那珂7次 5. 那珂深ヲサ遺跡
 6. 那珂君休遺跡 7. 那珂久平遺跡 9. 板付遺跡 10. 高畠庵寺 11. 仲島遺跡 12. 井相田C遺跡
 13. 南八幡遺跡1次 14. 南八幡遺跡2次・3次 15. 須玖岡本遺跡
 A. 那珂遺跡群 B. 板付遺跡群 C. 路同B遺跡群 D. 路岡A遺跡群 E. 井尻B遺跡群 F. 南八幡遺跡群
 G. 麦野B遺跡群（今回調査） H. 麦野A遺跡群 I. 麦野C遺跡群 J. 井相田B遺跡群 K. 井相田A遺跡群
 L. 仲島遺跡群

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

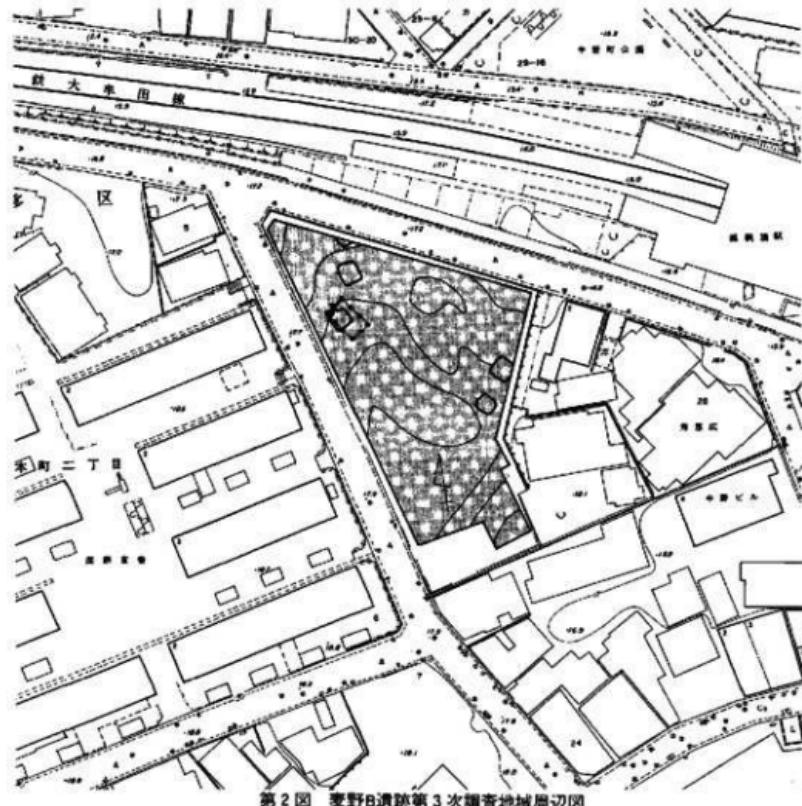
地形によると以前は多くの開析谷が入り込み複雑な地形をなしていたことがわかる。中位段丘上の、開析によって北に向かって三叉状に開く台地を三分し、西から南八幡遺跡群、麦野B遺跡群、麦野C遺跡群、麦野B遺跡群とC遺跡群の間から北西に伸びる麦野A遺跡群と呼称している。

麦野A遺跡群では過去4次にわたる発掘調査が行われており、第1・2次調査では15・16世紀の集落、¹¹3次調査では近世の井戸・土壙、奈良時代の遺物、第4次調査では8・9世紀の集落¹²が検出されている。

麦野B遺跡群では過去2次の調査がなされ、第1次調査では8世紀の井戸、第2次調査では8世紀の竪穴住居跡が検出されている。

麦野C遺跡群では過去1次だけ調査がなされ、8世紀の集落が検出されている。

南八幡遺跡群では過去4次の調査がなされ、第1次調査では古墳時代の溝、第2・3次調査



第2図 麦野B遺跡第3次調査地域周辺図

では6・8世紀の集落の集落、第4次調査では古代から中世にかけての獨立柱建物群が検出されている。

台地の北東側の沖積平野上に位置する井相田C遺跡では8世紀前半から9世紀前半にかけての主に獨立柱建物から構成される集落が検出され、大溝から墨書き土器、人面墨書き土器が出土している。

井相田C遺跡の南側には仲島遺跡が広がり、奈良時代の井戸が検出され、御笠川の氾濫原からも人面墨書き土器が出土している。

麦野A遺跡群北側の低位段丘上には高畠遺跡が立地する。大溝から多量の土器、瓦類の他、墨書き土器、木筒、祭祀遺物が出土している。

御笠川と那珂川に挟まれた牛頭山麓から北に伸びる洪積台地一帯には、「奴国」の中心とされる須玖岡本遺跡、須玖水田遺跡、須玖唐梨遺跡、板付遺跡、那珂遺跡、比恵遺跡といった弥生時代を代表する集落・生産・埋葬遺跡が濃密に分布しているが、麦野周辺の諸遺跡からは弥生時代はおろか6世紀中頃をさかのばる時期の遺構は検出されていない。

註1 「麦野下古賀遺跡」 福岡市埋蔵文化財調査報告書第107集 1984

註2 「麦野A-麦野A遺跡群第4次調査報告」 福岡市埋蔵文化財調査報告書第275集 1992

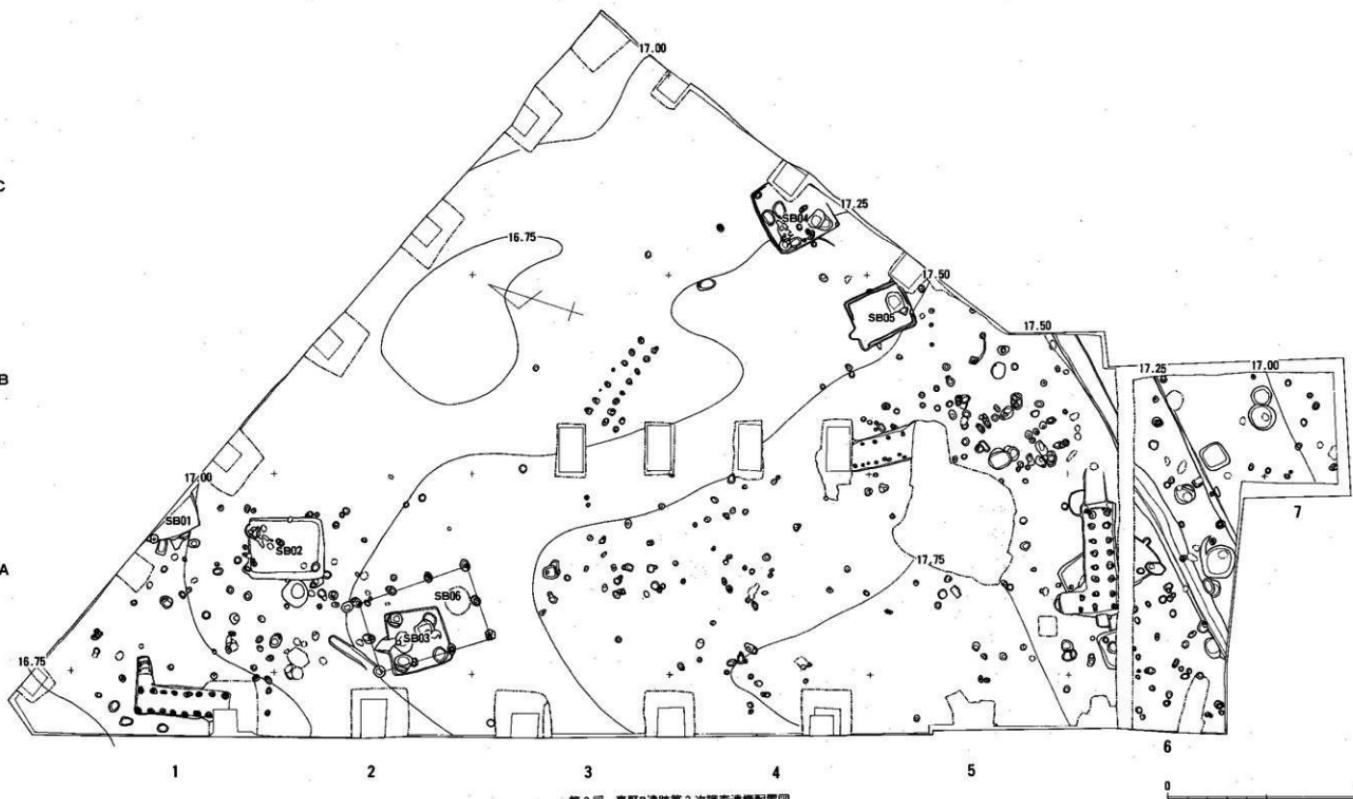
註3 「麦野B遺跡群-第1次調査」 福岡市埋蔵文化財調査報告書第164集 1987

註4 「南八幡遺跡群(II)トナシ遺跡」 福岡市埋蔵文化財調査報告書第128集 1986

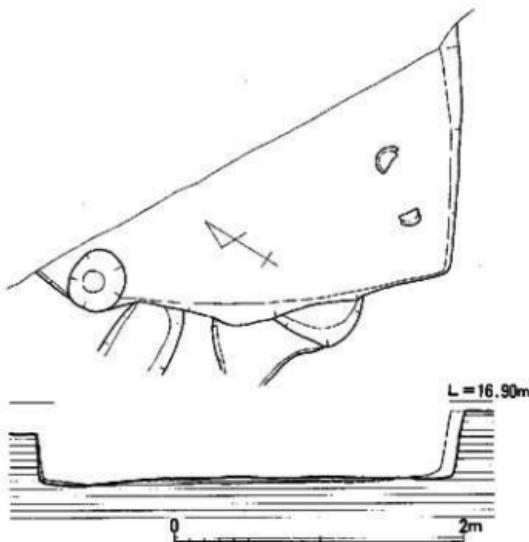
註5 「南八幡遺跡群-南八幡遺跡群第3次調査の報告」 福岡市埋蔵文化財調査報告書第181集 1988

III 調査の経過

調査地の現況は駐車場で、地表はアスファルト舗装され、ガレージとしてスレート葺きの屋根がわたされ、それらの除去の後、2月15日から表土剥ぎに入った。地中には依然コンクリート基礎が残り、バックホーにより除去可能なものは産業廃棄物として持ち出し処理した。現在の地表は北東方向へ下降している。その結果、南側では地山の削平が著しく、北側を中心寄せ度は希薄ではあるが客土下で遺構が認められ、南西部ではアスファルトの直下で地山が露出している部分もみられた。残土の搬出にも限度があり、南側約350mを残土置き場とし、残りの残土の処理は調査区域内で行い、北側の調査終了後に打つ手替えし、残り部分の調査を行うこととなった。遺構面はコンクリート基礎の他、近年の削平の際の重機の爪痕や廃棄物の処理壇が激しく残り、それらの攪乱の除去に多大な労を要した。2月17日より作業員を入れ、遺構の確認、検出作業にかかった。調査区内には先の大戦の際の防空壕が10mおきに同じ規格で4か所掘削されていた。全長5.0m、幅1.5mの長方形の長辺の端には長軸に直交する昇降口が付き、底面には土留めの横板を支えた杭列の痕跡が見られる。調査区の中央部の防空壕2は底面



第3図 桑野B遺跡第3次調査遺構配置図



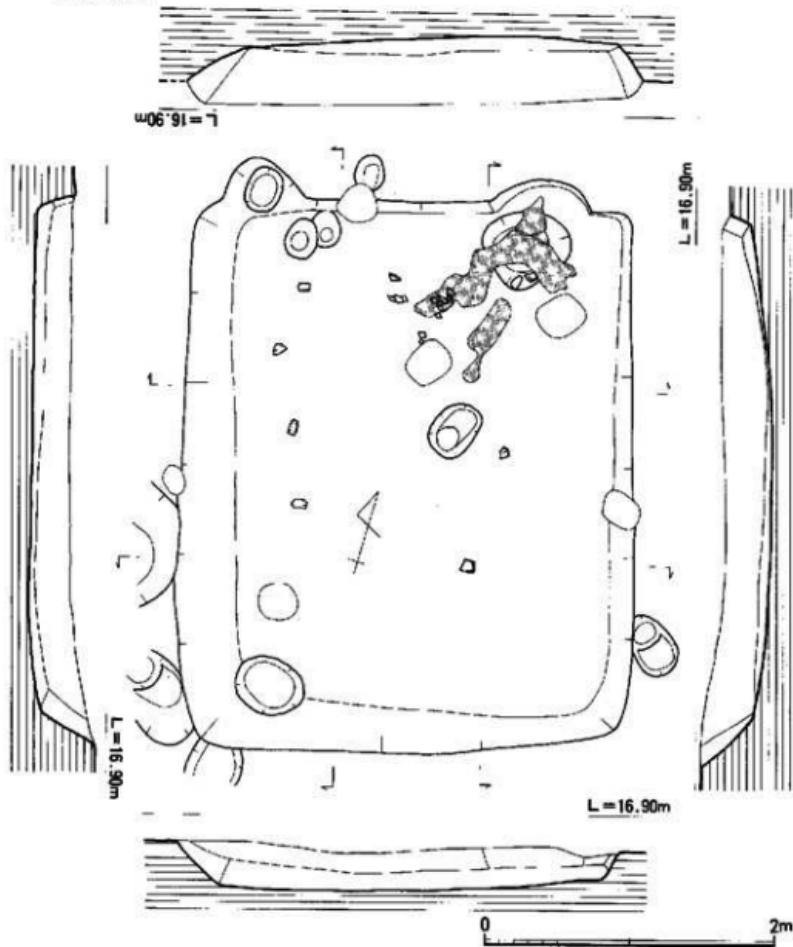
第4図 SB01竪穴住居実測図

の杭列跡だけが残る。他の防空壕の残存する深さは、北端に近い防空壕1で80cm、中南部の防空壕3が80cm、南端に近い防空壕4が50cmを測り、それぞれの壁の残り具合は近年の削平の度合いを示している。検出された遺構は8世紀代の竪穴住居跡5、掘立柱建物1で、比較的旧地形をとどめている北側の方が遺構の残り具合は良好である。その他、柱穴、ピット状遺構の多く検出されたが、建物としてまとめるには疑問な点があり、建物としてまとめ得たSB06の柱穴掘り方とも形狀が異なる。3月18日より遺構実測を開始し、翌19日に全景の写真撮影、27日には遺構個別の写真撮影を行い、26日からは併行して残土の移動、残り部分の表土剥ぎを行い、31日より残り部分の遺構の検出にあたった。遺構面は南向きに下降して、削平を免れていたが、竪穴住居跡、掘立柱建物は確認されず、土壌の他、柱穴、ピット状遺構が検出された。4月5日に残り部分の写真撮影を行い、7日からは遺構実測を開始し、8日をもって全ての調査が終了した。

IV 造構と遺物

1 検出造構

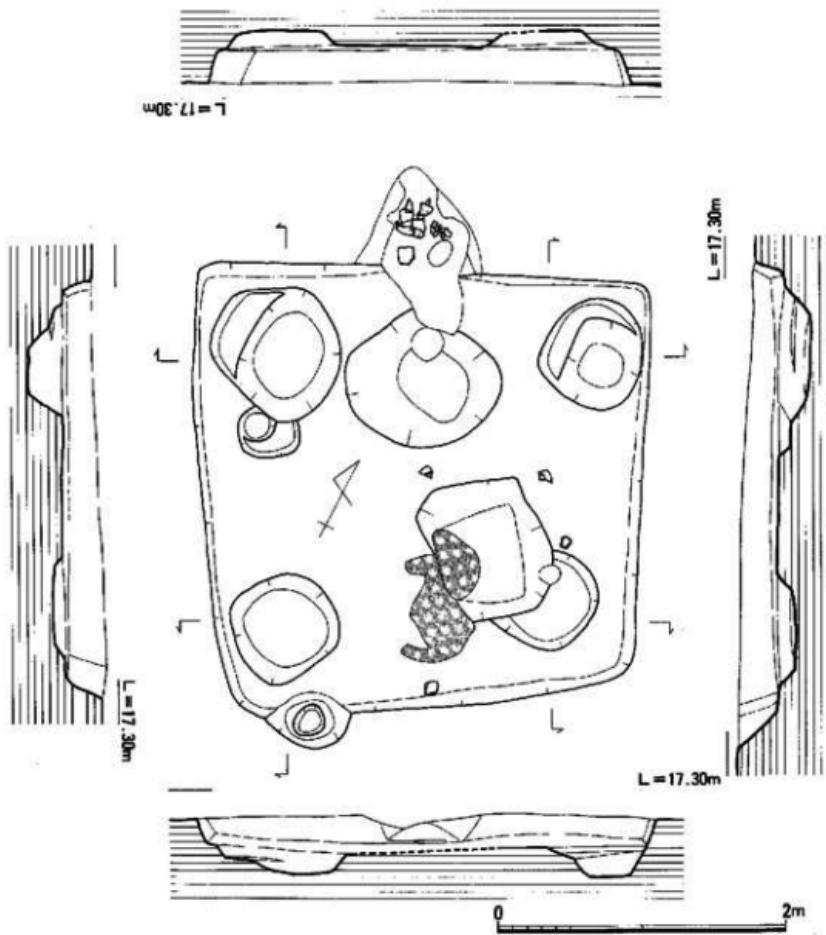
豊穴住居跡



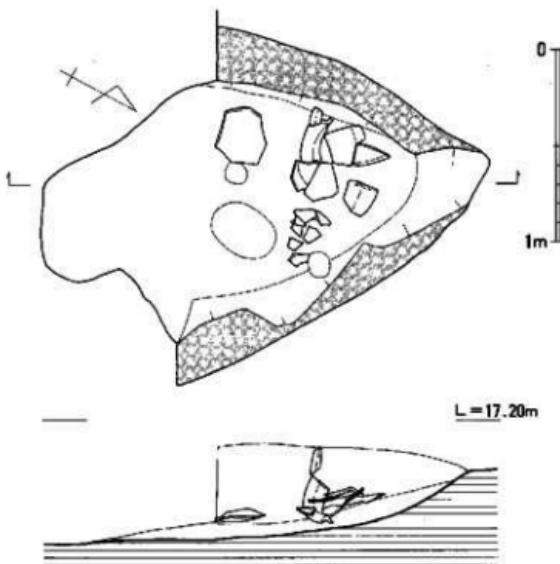
第5図 SB02豊穴住居実測図

SB01 (第4図、図版2) A-1区、調査区の北端で検出され、その約半分は調査区外への
壁高は約30から45cmで、直に近い立ち上がりである。床面では建物に伴うとみられる主
柱穴等は検出されなかった。

SB02 (第5図、図版2) A-2区、調査区の北側で検出された。東西3.1m、南北3.85mの



第6図 SB03堅穴住居実測図



第7図 SB03整穴住居カマド実測図

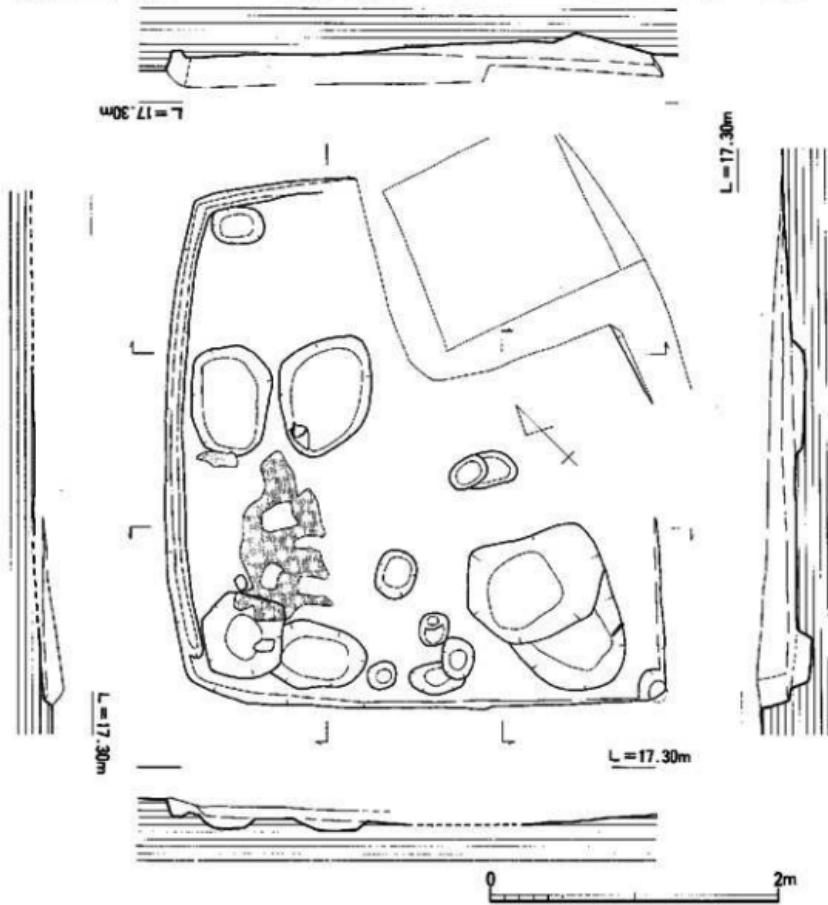
長方形を呈する。壁高は約25~30cmで、斜めに立ち上がる。北壁の東側にわずかに張り出しがみとめられたが、その周囲には焼上、炭化物、熱によって強く焼き縮まった痕跡は見出せず、張り出しそり内側の竪穴内に白色粘土の散在がみられた。床面では建物に伴うとみられる主柱穴は検出されなかった。方位はN-16°-Wにとる。

SB03(第6・7図、図版3) A-2区、調査区の北側で検出された。3.1m四方の方形の平面形を呈する。壁高は約10~20cmで、直に近い立ち上がりである。北壁の中央にカマドの煙道部とみられる強く焼き縮まった張り出しがみとめられ、その内側には土師器裏片が散在し、そこから続く竪穴内の床面には焚口とみられる浅い略円形の窪みが検出された。窪みの周囲では袖部とみられる白色粘土等の痕跡は検出できなかった。床面では明確な主柱穴等の建物に伴うとみられる柱穴は検出されなかったが、竪穴の四隅に直径70cm前後、深さ10~20cmの浅い窪みが検出された。方位はN-28°-Wにとる。

SB04(第8図、図版5) C-4区、調査区の東側で検出された。東西3.7m、南北3.7mの長方形を呈する。北東隅は擾乱を受け、後世の削平により、西壁と南壁が5cm、東壁と北壁はほとんど遺存せず、張り出し等はみられなかったが、南西隅に白色粘土の散在がみられた。西辺と北辺に幅約10cmの壁溝がめぐる。北西と南東隅で直径20cm前後、深さ5cm未満の浅いピット、南西隅で直径約60cm、深さ20cmの窪みが検出された。南西隅の窪みには白色粘土の下面で確認

され、カマドの焚口の痕跡の可能性がある。方位はN-45°-Eにとる。

SB05(第9図、図版4) B-5区、調査区の東側で検出された。東西2.55m、南北3.55mの長方形を呈する。壁高は約25~35cmで、直に近い立ち上がりである。北壁の中央より西側にカマドの煙道部とみられる張り出しがみとめられ、その内側には土器片が散在しているが、堅く焼き締まった形跡はみられなかった。焚口の底みは明確には検出されなかったが、煙道部から続く竪穴内の床面のレヴェルが周囲より若干約5cm低くなっていた。袖部の基底は焚口の東(右)

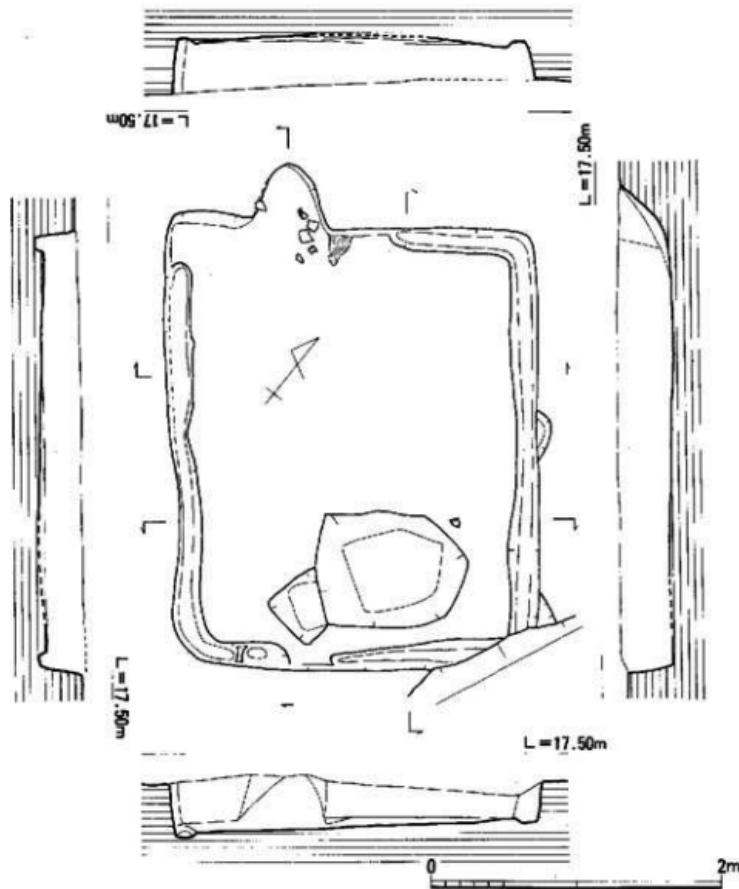


第8図 SB04竪穴住居実測図

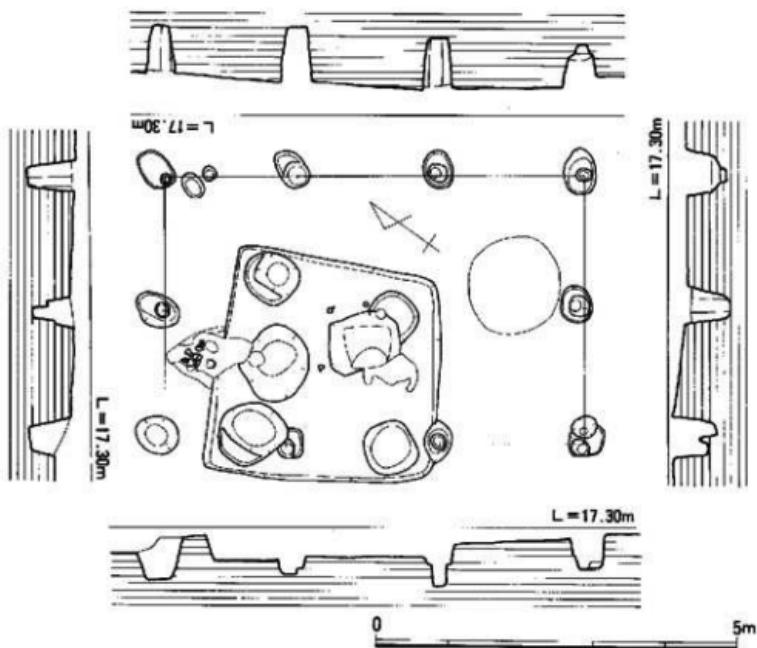
側のみ北壁から約20cm確認された。黄褐色、黄白色土粒を含む淡灰褐色土で構築されている。四周に幅約10cmの壁溝がめぐる。床面では明確な主柱穴等の建物に伴うとみられる柱穴は検出されなかった。方位はN-40°-Wによる。

獨立柱建物

SB05(第10図、図版5) A-2区、調査区の北側で検出された。柱穴の内一部はSB03竪穴住居跡と重複して検出された。SB03埋土上では柱穴は確認できなかったが、両者の埋土にはと



第9図 SB05竪穴住居実測図



第10図 SB06掘立柱建物実測図

んど差異がみとめられず、切り合いで前後関係を明らかにすることはできなかった。梁間2間、桁行3間の南北に長い建物である。梁間の全長19m、桁行の全長29mを測る。柱穴掘り方は梢円形で、径20~30cm、深さ15~35cmを測る。柱穴の一部で柱痕跡が確認され、径10cm前後である。方位はN-35°-Wとなる。

2 出土遺物

SB01出土土器 (第11図、図版8・10)

須恵器

杯蓋(1) 天井部外面は回転ヘラ削りされ、低く水平で、体部との境には稜がつく。断面三角形の口縁端部は体部から外反し、内面の体部との境はやや不明瞭である。

杯(5) やや外側に開く断面四角形の高台が底端部についた底部片である。

皿(2~3) 体部が直線的にのび、口縁下で外反する。底部は平坦である。

土師器 壺(6) やや直線的に外反する口縁部片で、内面には稜がつく。

SB02出土土器 (第11図、図版8・10) 7・8・15・17・18はカマド周辺からの出土である。

須恵器

杯蓋(7・8) 天井部外面は回転ヘラ削りされ、低く水平で、体部との境には稜が入る。断面三角形の口縁端部は体部から垂直に屈曲し、内面の体部との境には明瞭に稜がつく。

杯(9~18) 9は底部と体部との境に稜がつく。10は断面四角形の高台の端部が外側に跳ね上がる。11は底部と体部との境に稜がつき、断面四角形の高台が底端部よりやや内側につく。11は外反する口縁部片である。13は底部と体部との境が丸みをもち、断面四角形の高台が底端部よりやや内側につく。高台の端部は外側に跳ね上がる。14は無高台で、体部が直線的に外反する。15の体部は丸みをもち、口縁下で外反する。断面四角形の高台の端部は外側に跳ね上がる。

16はやや下位にある底部と体部の境に、ゆるく稜がつく。17は15と同じ型の口縁部片である。

高杯(18・19) 口縁端部を平坦にする杯部の破片である。18の口縁端部はわずかに外傾する。

SB03出土土器 (第12図、図版8) 20・21・24はカマド周辺からの出土である。

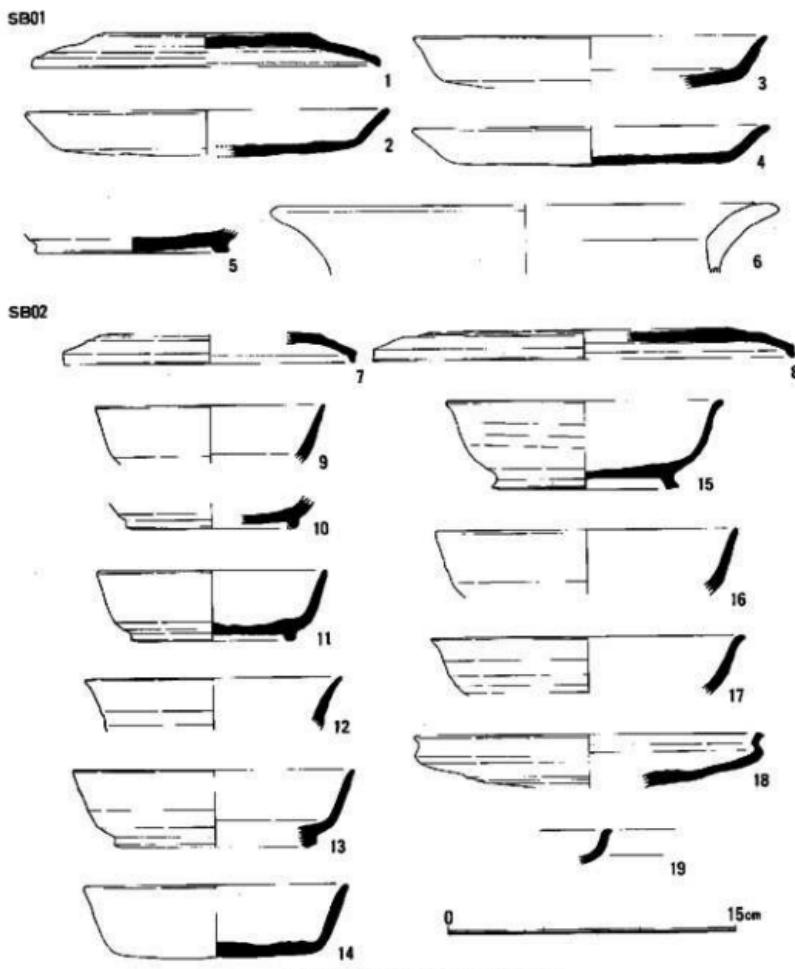
須恵器 杯(20~23) 体部が直線的に外反し、底部と体部の境に稜がつく。断面四角形の高台が底端部よりやや内側につき、20・21の高台の端部は外側に跳ね上がる。

土師器 壺(24) 刷部はあまり張りがなく、口縁部との境の屈曲部は肥厚し、口縁部が外反してのびる。口縁部の内面には稜がつく。口縁部外面は横ナデ、内面は横方向の刷毛目、刷部外向は縦方向の刷毛目、内向はヘラ削りを施す。

SB04出土土器 (第12図、図版9・10)

須恵器

杯(25~28) 25は体部が直線的に外反し、底部と体部の境に稜がつく。断面四角形の高台が底端部よりやや内側につき、高台の端部は外側に跳ね上がる。26・28は25と同じ型の体部下半以下の資料である。27は器表の磨滅が著しく、図示した高台は本來の形状ではない。



第11図 SB01・02出土遺物実測図

皿 (29・30) 体部は直線的外反し、30の底部は丸みをもつ。

Pit70出土土器 (第12図、図版9)

須恵器 杯(31) 体部は直線的にのび、底部と体部の境に稜がつく。高台端部は外側に拡張される。

Pit71出土土器 (第12図、図版10)

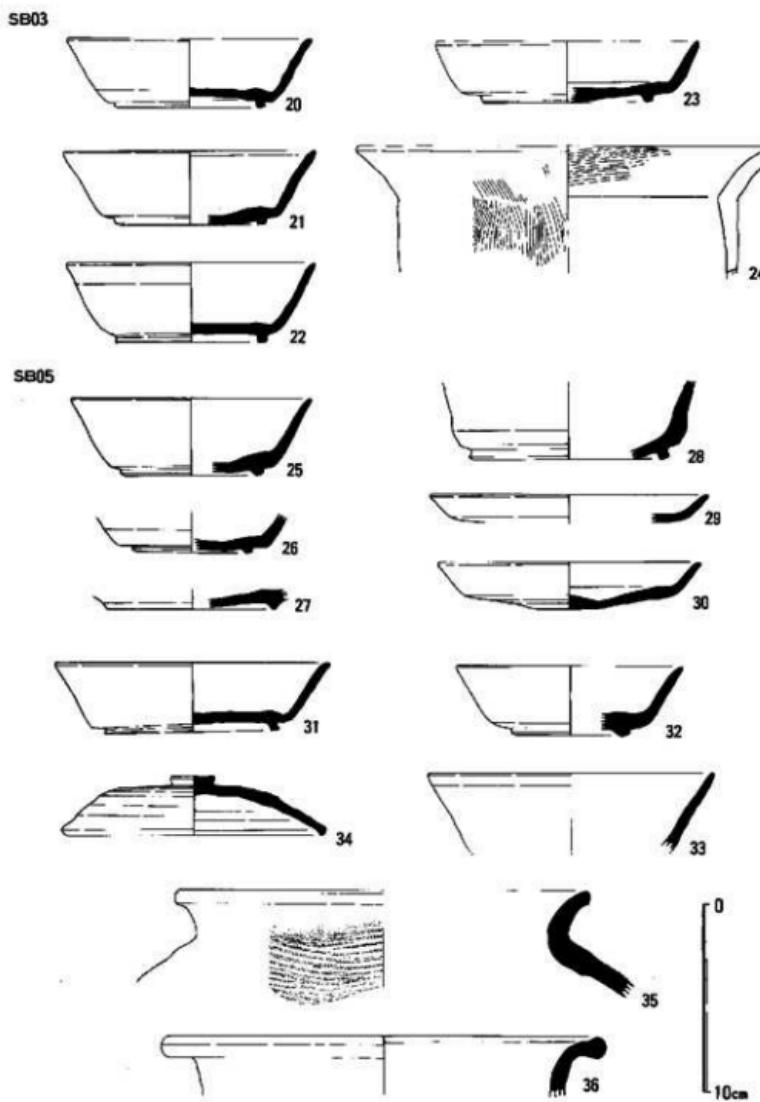
須恵器 杯 (32・33) 32の体部は直線的にのび、底部と体部の境は丸く、底端部よりやや内側についた高台の端部は外側に跳ね上がる。33は直線的にのびる体部片である。

SK08出土土器 (第12図、図版9)

須恵器 壺 (35・36) 35は横位の平行叩きを施す。36は屈曲した口縁部から端部を上方に肥厚させる。

SK13出土土器 (第12図、図版9)

須恵器 杯蓋(4) 天井部外面は回転ヘラ削りされているが丸みをもち、体部との境は不明瞭である。偏平なボタン状のつまみがつく。断面三角形の口縁端部は体部から内傾し、内面の体部との境はやや不明瞭である。



第12図 SB03・05他出土遺物実測図

捕団番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	捕団番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	捕団番号	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
SB01				13	(14.5)	4.1	(10.6)	27			(8.8)
1	(18.0)	1.8		14	(13.8)	3.8	(9.2)	28			10.6
須恵器皿				15	14.5	4.6	9.8	須恵器皿			
2	(18.8)	2.5	15.0	16	(15.8)			29	(14.8)	1.5	(12.6)
3	(18.4)	2.7	15.4	17	(16.5)			30	(14.0)	2.5	(11.0)
4	18.7	2.1	14.0	須恵器高杯				Pit70			
須恵器杯				18	(18.2)			須恵器杯			
5			10.0	19				31	14.6	3.7	9.3
土師器甕				SB03				Pit71			
6	(26.5)			須恵器杯				須恵器杯			
SB02				20	(13.0)	3.7	8.0	32	(12.0)	3.8	(6.2)
須恵器高蓋				21	(13.3)	3.9	8.0	33	(15.2)		
7	(15.0)	1.6		22	(13.2)	4.2	8.0	SK13			
8	(22.0)	1.6		23	(14.0)	3.3	(9.0)	須恵器高蓋			
須恵器杯				土師器甕				34	14.0	3.2	
9	(12.0)			24	22.5			SK08			
10			(9.0)	SB04				須恵器甕			
11	(12.0)	3.7	8.6	須恵器杯				35	(22.0)		
12	(13.4)			25	(12.8)	4.1	(7.3)	36	(23.6)		
				26			(6.4)	(括弧内の数値は復元値)			

第1表 出土土器計測表

図 版



I. 麦野B遺跡第3次調査区北側(南から)



2. 麦野B遺跡第3次調査区南側(北から)



I. SB01 竪穴住居跡（南西から）



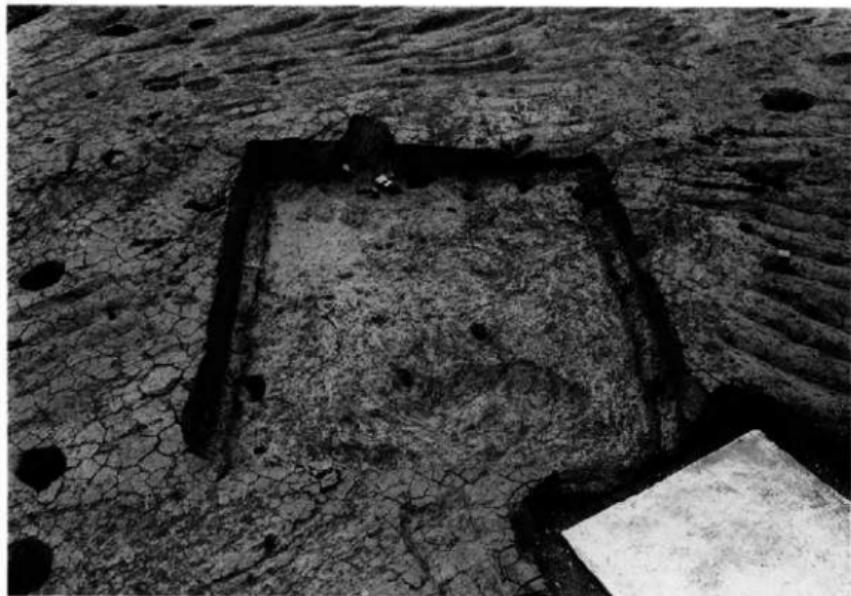
2. SB02 竪穴住居跡（南から）



1. SB 03竪穴住居跡（南から）



2. SB 03竪穴住居跡カマド（南から）



I. S B 05堅穴住居跡（南東から）



2. S B 05堅穴住居跡カマド（南東から）



1. S B 04 穴住居跡（南西から）



2. S B 06 挖立柱建物（南から）



2.



3.

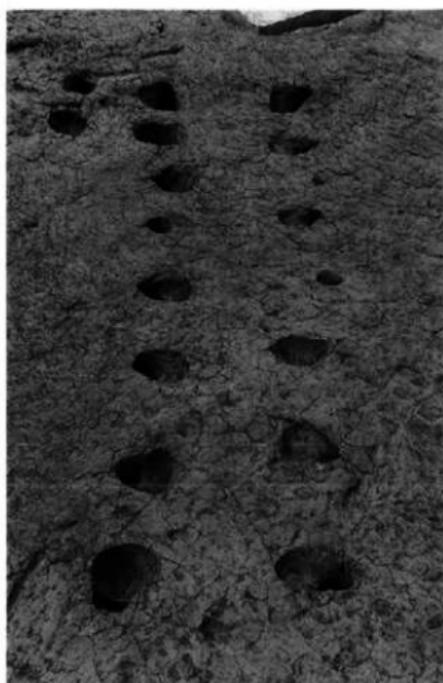


1.

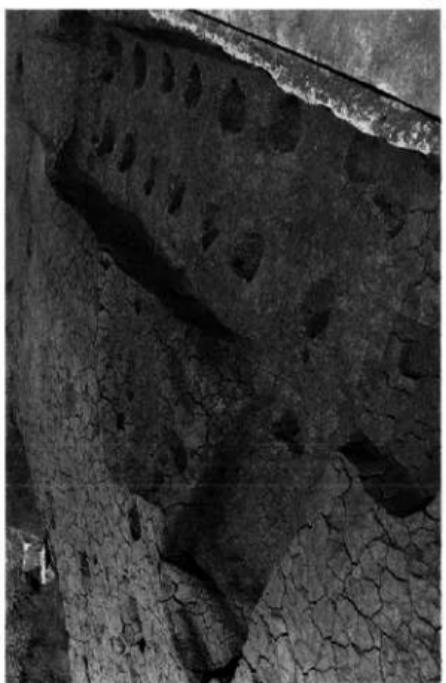
図版 6. 1. S B06掘立柱建物柱穴（東から） 2. 3. 作業風景
 図版 7. 1. 防空壕 2（南東から） 2. 防空壕 1（北から）
 3. 防空壕 4（南西から） 4. 防空壕 3（南東から）



4.

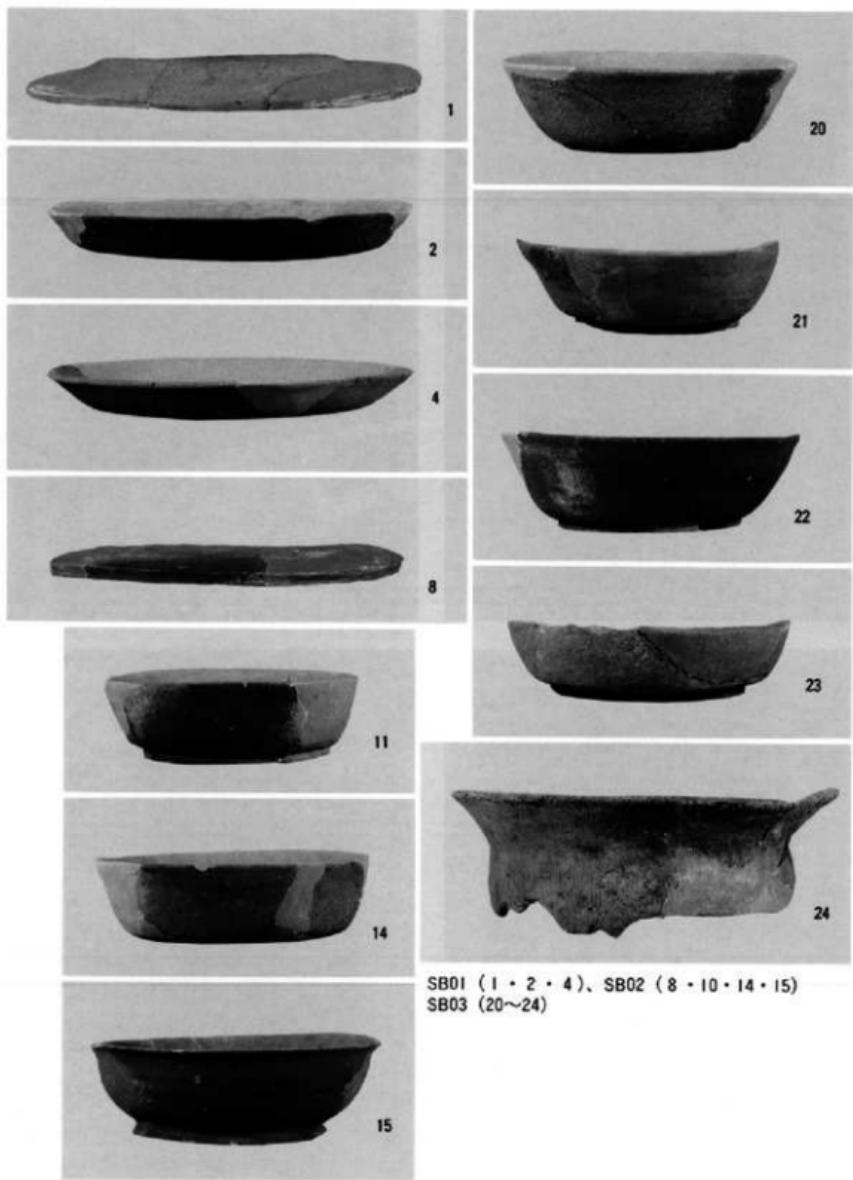


3.

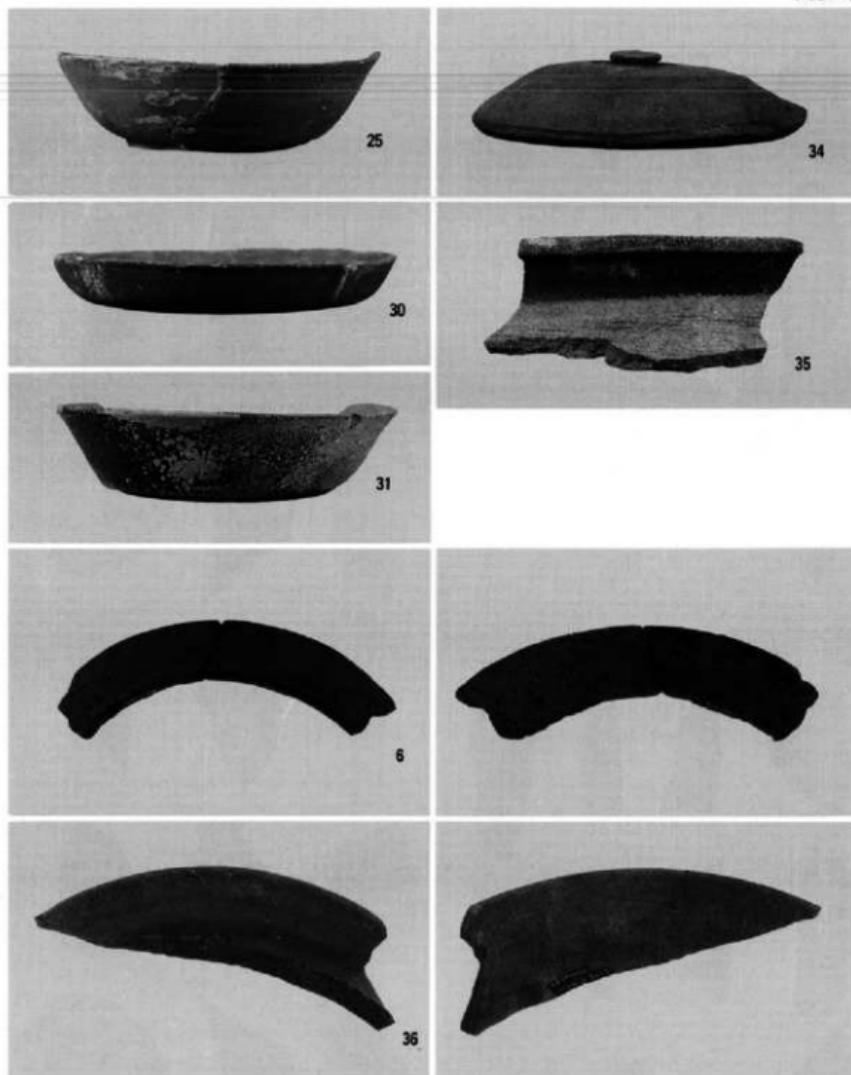


2.

圖版 8.

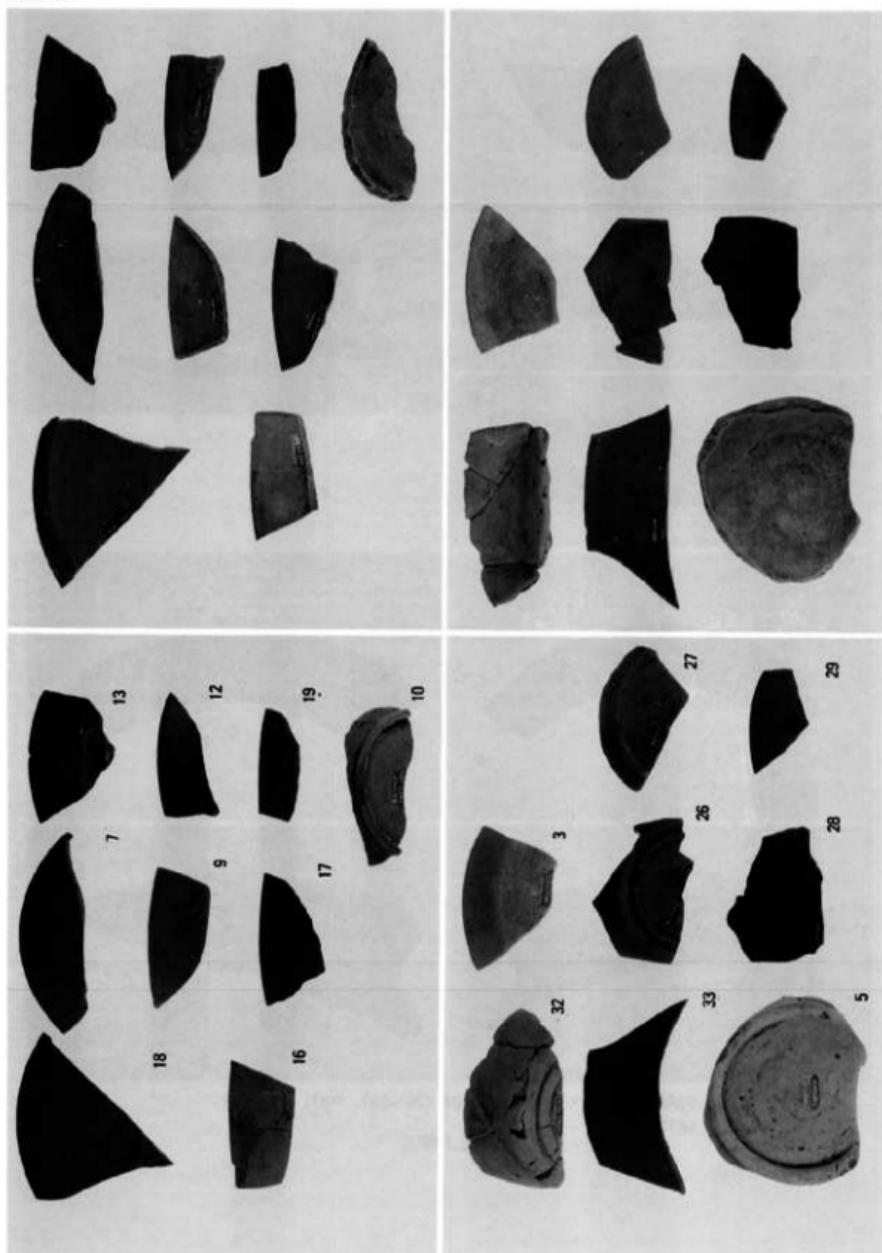


出土土器(I)



SB01 (3・5)、SB02 (7・9・16~19)、SB04 (26~29)、Pit7I (33・33)
SK08 (35・36)、SK13 (34)

出土土器(2)



SB04 (25·30)、Pi170 (31)、SK08 (35·36)、SK13 (34)

麦野B遺跡II

—麦野B遺跡群第3次発掘調査報告—

1994年（平成6年）3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神一丁目8番1号

印刷 正光印刷株式会社
福岡市西区周船寺三丁目28番1号

